



柏葉



学校だより 第34号
令和6年1月19日(金)
福島県白河市立東北中学校
発行責任者 校長 渡邊泰昌
「自分の未来を切り拓け！」

青少年赤十字 詩・100文字提案作品 学校賞受賞!

わたしの青少年赤十字

詩・百文字提案優秀賞作品

「わたしの夢・福島未来」

白河市立東北中学校

三年 平久江 真菜

コロナ禍を過ごしてから何度も「医療従事者」という言葉を耳にした。このコロナ禍を私たちが乗り越えられたのは、一生懸命に働いてくれた医療従事者の方々のおかげだと私は思う。どんな状況にでも立ち向かえる「強い医療従事者」に私もなりたいたい。

わたしの青少年赤十字

詩・百文字提案佳作作品

「いのちの詩・愛の詩」

白河市立東北中学校

三年 今井 騎士

幸せだね、
日常があるって。
幸せだね、
家族がいるって。
幸せだね、
友達がいるって。
幸せだね。
ほら、
こんなにたくさん幸せがあるよ。



わたしの青少年赤十字

詩・百文字提案佳作作品

「いのちの詩・愛の詩」

白河市立東北中学校

三年 柳沼 香里奈

帰る場所がある。
「おかえり」と言ってくれる家族がいる。
困っていると助けてくれる友達がいる。
将来のことを一緒に考えてくれる先生がいる。
私にとって当たり前なことでも他の人からしたら当たり前と限らない。
温かい家族がいること。優しい友達がいること。頼れる先生がいること。
決して当たり前ではない。
私の周りには優しさや愛であふれている。
そのことに感謝することを忘れないでいたい。
そして、私も誰かの当たり前前の優しい人になりたい。



掲載したものは、日本赤十字社福島県支部が作品を募集し、東北中学校の生徒が受賞した作品です。

とても心に響く作品ばかりです。短い文章で、自分の考えを表現できている部分も、とてもすばらしいと思います。

そして、たくさんの生徒の皆さんが受賞したことから、東北中が「学校賞」をいただくことができました。受賞した生徒の作品を次号でも紹介していきます。お楽しみに。

わたしの青少年赤十字

詩・百文字提案佳作作品

「いのちの詩・愛の詩」

白河市立東北中学校

三年 吉成 彩瑛

だれかのやさしい言葉で
だれかの大切ないのちが救われる
だれかの心ない言葉で
だれかの大切ないのちが奪われる
たった一つの言葉で
いのちがつながったり、途切れたりする
言葉はときに凶器になる
私たちが住む世界に優しい言葉があふれたら
どれだけのいのちが救われるのだろう

